



文化

国史跡美濃国分寺跡御朱印を発行しました

国史跡美濃国分寺跡が令和3年3月に国史跡指定100周年を迎えたことを記念して、全国に68か所ある国分寺跡のなかでも、初となる御朱印を令和3年11月1日から歴史民俗資料館で販売します。

美濃国分寺跡御朱印には、国分寺跡から出土した軒瓦^{のきがわら}である軒丸瓦^{のきまるがわら}と軒平瓦^{のきひらがわら}の拓本をそのまま写し取り、朱印で押印しています。なかでも、軒丸瓦に浮かぶ文様は、単弁十六葉蓮華文^{たんべんじゅうろくようれんげもん}と呼ばれる蓮の花が象られた美しいものです。また、文字は石田仁市長^{きこう}の揮毫です。

多くの皆さんに、御朱印を楽しんでいただくことで、ふるさと大垣の史跡への理解を深めていただく機会となれば幸いです。



御朱印(300円)

【歴史民俗資料館】

所在地：大垣市青野町1180番地1

開館時間：午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

休館日：火曜日(祝日の場合はその翌日)、

祝日の翌日、12/29～1/3

入場料：一般100円 18歳未満無料



美濃国分寺跡出土軒瓦

新たな連携協定を結びました

協定①



大垣市版「GIGAスクール構想」の推進
(授業支援、教職員研修支援など)

相手方 NPO法人 パソコンまるとアシスト

協定②

墨俣さくら会館のイベント映像の配信
(インターネット及びケーブルテレビ網による映像配信)

相手方 (株)大垣ケーブルテレビ

協定③

小中学校におけるプログラミング学習環境の充実
(授業教材の提供、授業支援、教職員研修など)

相手方 (株)スイッチエデュケーション

大垣市教育委員会

〒503-8601 大垣市丸の内2丁目29

TEL(0584)47-8022(直通) FAX (0584)82-6385

Email : kyouikusyomuka@city.ogaki.lg.jp

— 法務省 人権啓発キャッチコピー —

「誰か」のことじゃない。

(「東京2020公認 人権啓発キャッチコピーコンテスト」最優秀作品)

新しい習慣で感染症予防!
～手洗い マスク 人との距離～

みんなが学び交わり成長する 文教のまち大垣

大垣市教育委員会だより

はぐくみ

vol.18

発刊
令和3年
11月

総合教育会議 市長と英語教育について意見交換を行いました

市長と教育委員会は、教育についての施策などを協議する総合教育会議を9月29日に開催し、英語教育について意見交換しました。

教育委員からは「多様性を尊重し、グローバル化に対応するツールとして大切」、「タブレット端末でスピーキングの自己評価が可能なサポートシステムの活用をしてほしい」、「小学校のうちは、理論よりも実践を徹底して、基本的に『楽しく、興味を持たせる』ことがポイント」、「外国人と話すチャンスをつくってあげることが重要」などの意見が出され、市長と活発な意見交換を行いました。

この会議で出された意見を取り入れながら、子どもたちにとってより良い英語教育を進めてまいります。



大垣市の英語教育について

本市では、小・中学校において、コミュニケーション能力の育成に重点を置いた英語教育の推進を図っています。

小学校では、全国に先駆け、平成18年度から市内全小学校の第3学年以上を対象に、教科としての授業を開始しました。平成29年度からは、これに加え、朝などの短時間学習の中で英語教育を行う「モジュール」を取り入れ、児童がより多くの時間、英語に触れることができるように取り組んでいます。

普段の授業では、ネイティブスピーカーであるALT (Assistant Language Teacher) や、英語地域人材講師であるVET (Volunteer English Teacher) を配置し、対話活動における指導・支援の充実を図っています。

令和2年度からは、中学校において、「市内共通パフォーマンステスト」を実施しています。これは、ALTと生徒による1対1でのスピーキングテストで、トピック(話す内容)を当日その場で提示するため、即興で話す力の育成を図るための取り組みです。

今後は、海外児童生徒と英語で交流する機会を設けるなど、実際のコミュニケーション能力の育成に更に努めてまいります。



パフォーマンステストの様子



学校

さまざまなプログラミング教材で学びを深めています

LINEentry(ラインエントリー)

一般財団法人LINEみらい財団が提供しているプログラミング学習プラットフォームです。

小学校3～5年生の児童が国語・算数・総合的な学習の時間の授業で、楽しく学べるよう親しみやすいキャラクターを使用し、使いやすいビジュアル型のプログラミング言語を組み合わせることによって、簡単にプログラムを実行することができます。



【学習画面】



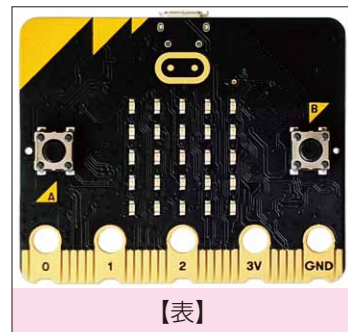
【ワークシート】

micro:bit(マイクロビット)

イギリスのBBC(英国放送協会)が主体となって作った手のひらサイズの教育向けマイコンボードです。日本でも、プログラミング教育の必修化をきっかけに学校での導入が進んでいます。

LED、ボタン、センサーなどをあらかじめ搭載しており、パソコンやタブレットなど、いろいろな端末でプログラミングできます。

小学校6年の理科や中学校の技術科の授業で使用し、簡単なプログラムから複雑なものへと、段階的にプログラミングを学ぶことができ、拡張パーツを追加すれば、ロボットなど個性豊かな作品を作ること可能です。



【表】



【裏】

Codey Rocky(コーディーロッキー)

プログラミング学習をサポートするAI対応のSTEAM教育※ロボットです。

移動やLEDディスプレイ、距離、色、光、音、ジャイロセンサ等に対応する機能に加えて、AIによる画像認識・音声認識やインターネットからの天気情報取得といった豊富な機能によって、子どもの学習の幅を大きく広げます。また、Bluetooth機能により、タブレット端末からCodey Rockyに無線でプログラムを送ることができるため、子どもが気軽にプログラミングを楽しむことができます。

小学校6年の総合的な学習の時間の授業では、この学習活動を通して論理的思考、問題解決能力、創造力・想像力などを身に付けることが可能です。



【Codey Rocky】

※【STEAM教育】

Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Art(芸術)、Mathematics(数学)を統合的に学習する教育手法です。

家庭で考える情報モラル

子どもたちをネットトラブルから守るためには、家庭と学校が両輪となって取り組んでいく必要があります。現在、お子様がスマートフォン(以下スマホ)を持っていない家庭においても、将来の安心・安全のために、次のようなことを話題にして、親子で情報モラルについて話し合っておきましょう。

【話し合っておきたい3つのポイント】

- 1 フィルタリングについて
- 2 健康面について
- 3 みんなが納得する約束づくりについて



1 フィルタリングには、子どもたちが犯罪に関するサイトや不適切なサイトを閲覧できないようにしたり、有料アプリ、課金アプリなどを勝手に購入できないようにしたりする機能があります。岐阜県青少年健全育成条例には、「保護者は、青少年(18歳未満)がインターネットを利用するにあたって青少年有害情報を青少年が閲覧し、又は視聴することを防止するよう努める」と規定されています。フィルタリングをかけることに加えて、どうしてフィルタリングが必要なのかを家族で話し合うことも大切です。

2 スマホやタブレットを1時間利用したら10分間程度は目を休ませる、就寝する前の30分間は利用しないなどの約束を決めておきましょう。夜間は保護者の目の届くところにスマホ等を預かることも重要です。



3 家庭でのルールや約束は、子どもも保護者も納得をして決めることが大切です。ルールや約束を決めるにあたっては、親は子どもを守るためにどんな心配をしているのか、子どもは何のために利用しようとしているのかをお互いに説明し、家族みんなが納得できる約束をつくって利用するようにしましょう。また、日頃から機会をとらえて、インターネットの利点や欠点について家族で話し合っておきましょう。

インターネットに限らず、どんな場面でのトラブルも、「私(の家族、子ども)には関係ないこと」という意識でいることは大変危険です。近い将来には、子どもたちも急速に広がるインターネット社会で、他者とつながりながら生活していきます。適切な判断力を身に付け、自律していけるよう、普段から情報モラルについて親子で話し合う機会を大切にしましょう。